

《学校の教育目標》 夢に向かって、共に学び合い、たくましく生き抜く生徒の育成  
 〈本年度 学校の重点目標〉 共感的人間関係の育成と「分かった」「できた」を実感できる授業づくり

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、他の学習や生活場面に生かすことができる。  
 【つくる力】

相手や状況に合わせて適切に表現し、お互いの考えを取り入れながら協働できる。  
 【つなぐ力】

夢や目標をもち、それに向かって、自分の心身を鍛え、あきらめずに挑戦しようとする。  
 【つらぬく力】

### 学びをつなぐ授業

- ①学力向上プラン「視点2」に記載
- ②小テストや単元テストを継続的に行う。(国語、数学、社会、理科、英語 毎単元)  
 【成果指標】「先生はわかるまで教えてくれる」と答える生徒の割合が全教科90%以上
- ③ICTを活用して教材(写真、動画等)及び課題の提示や情報収集等を行う。(全教科毎単元)
- ④英語科の授業で、コミュニケーションに関わる言語活動(聞く、話す、書く、読む)の充実を図る。(毎時間) 各種検定において「CEFR A1」相当以上の英語力の向上を目指す。

### 笑顔の先生

- ①学力向上プラン「視点4」に記載
- ②働き方改革を積極的に推進し、超過勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスを進める。  
 【成果指標】「月80時間超の時間外在校等時間の割合を、元年度同月比から50%削減」

### 協働する学校・家庭・地域

- ①地域学校協議会プラン「提言①」参照
- ②地域学校協議会プラン「提言②」参照
- ③学力向上プラン「視点4」に記載

### 楽しい学校

- ①「くるめアクションプラン」の初期対応を徹底する。(毎日)いじめ・不登校対策委員会で、ケースに応じた対応策を検討し、全職員で共有する。(月1回)学校生活の状況や悩みを把握する生徒・教員の2者面談を行う。(学期1回)【成果指標】不登校数が4人以下、いじめの解消率が90%以上(3学期発生分を除く)
- ②生徒会が中心となって、「休み時間の安全な過ごし方・廊下の通り方」「けが人数と発生場所、原因」を伝える取組等を行う。(月1回) また、防災・減災教育の充実を図る。(学期1回)
- ③発育測定・体育会・文化発表会等の各行事において、縦割りブロック活動をいかして特別活動を充実させ、自己有用感と集団への帰属意識の高揚を図る。(学期1回)

### 【体力向上】

- ①体育の授業のはじめに、持久力を高めるために、サーキットトレーニング等による補強運動を行う。(毎時間)
- ②明星中体力アッププロジェクト(部活動の導入時の計画的な補強運動)、「1校1取組」運動  
 ・体力アップシート活用率:目標90%

### 【あいさつ・そうじ・自学自習】

- ①あいさつデーを設定し、登下校時において、生徒会・PTA・教職員と共にあいさつ運動を行う。(毎月)
- ②ブロック活動をいかした愛校作業・地域清掃ボランティア・高良川清掃活動等に取り組む。(毎学期)
- ③「放課後チャレンジ塾」の取組(毎週)、明星セルフスタディWeekでの家庭学習の取組。(年4回)

### 基盤として大切にすること(本年度の重点)

- 【人権・同和教育】すべての学校教育活動の中で、命の大切さや自他の人権について理解するとともに、人権問題を自分事として考え、仲間とともに行動する生徒を育成する。〔要綱P119~参照〕
- 【特別支援教育】通常の学級を含む特別な教育的支援が必要な生徒について、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し活用していく。〔要綱P138~参照〕
- 【キャリア教育】自らの適性を自覚し、将来への進路を主体的に選択していくことができる生徒を育成する。〔要綱P140~参照〕